

第 362 回所長会議議事要旨

日 時 令和 7 年 9 月 30 日 (火) 13 : 43 ～ 14 : 23

場 所 管理棟大会議室 + ウェブ (Teams) 併用

出 席 者

【構成員】 浅井機構長、足立理事、長野理事、花垣理事、道園理事、元村理事、齊藤素粒子原子核研究所長、船守物質構造科学研究所長、小関加速器研究施設長、波戸共通基盤研究施設長、小林 J-PARC センター長 (東海キャンパス所長)

【オブザーバー】 三明監事、白木澤監事

【管理局等】 柴原総務部長、森安財務部長、原研究協力部長、永野施設部長、櫻井参事役、島根監査室長、岩見人事担当課長、仲島情報基盤管理課長、飯塚財務企画課長、飯塚経理課長、日下田契約課長、鈴木東海契約課長、枝川連携推進課長、三國 QUP 業務推進室長、河西国際企画課長、横田施設企画課長、栃木資産マネジメント課長、山本整備管理課長、福田東海管理課長

議 事

【1】第 361 回議事要録の確認について

資料 1 のとおり承認された。

【2】協議

(1) KEK における大型研究計画の進め方について

花垣理事から、資料 2 に基づき説明があり、審議の結果、了承された。なお、審議において、以下の意見交換がなされた。

<主な意見>

- ・ 今後は、KEK ロードマップ改め KEK ドリームを策定し、研究推進会議で決定されるとの理解で正しいか？
→ 理解の通り。研究推進会議で決定することで位置づけは明確になり、従来と変わらない一貫性が保たれる。その後、各所施設でショートリスト (SL) を作成し、国際諮問委員会 (SAC) で科学的意義を審議、必要なものはレビュー委員会を設置し、最終的に所長会議で予算化を目指すプロジェクトとするかどうかを審議する。
- ・ KEK Project Implementation Plan (KEK-PIP) 後継は何になるのか？
→ 現時点では特定の名称を定めていない。SL の中で科学的に承認され、予算化を目指すものについて所長会議で審議する。KEK-PIP と同様に「予算化を目指すプロジェクトリスト」として扱うことになる。
- ・ KEK ドリームはどのような性格のものか？
→ 自由に新しいアイデアを出せる場として長期的な構想も含めたい。その中で産学連携とするかなどのアイデアや外部資金で進めるものも対象として、種が枯れつつある現状もあるので幅広い発想を歓迎する。
- ・ 財源はフロンティアに限定されるのか？それとも広い範囲を想定しているのか？
→ 基本的には文科省ロードマップに載る大規模フロンティアが一義的な対象だが、それに限らず財源多様化の流れの中でも進められるよう外部資金を活用する小規模プロジェクトも含めて柔軟に検討する。

- ・人事異動などで業務の執行体制が変わったタイミングでも計画の継続性は担保されるのか？
→ これまでの反省を踏まえ、プロセスを明文化し、所長会議で記録する（議事録に残す）ことで体制が変わっても引き継ぎが可能になる。これまで明文化されていなかったことが問題だったため、今回は是正する変更でもある。
 - ・SAC を通過した案件は正式に KEK のプロジェクトと見なされるのか？
→ SAC 通過＝KEK 正式プロジェクトではない。SAC は科学的意義を確認する場であり、その後レビュー委員会や所長会議の審議を経て、初めて「予算化を目指すプロジェクト」として位置づけられる。従来のように自動的に正式プロジェクトとの認識とならないよう、意識して運用する必要がある。
 - ・2026 年の文科省ロードマップには間に合わないとのことだが、KEK として新しく予算化を目指す議論は進めていけるのか？
→ 2029 年度を目指すことになるが、この3年間に新しく予算化を目指す意思が生まれれば、年度内でもレビュー委員会を設けて検討できる。文科省ロードマップの掲載に間に合わなくても柔軟に検討する。
 - ・文科省ロードマップに掲載する意義・効果は？
→ 掲載しても必ず予算化されるわけではないが、掲載していなければフロンティア予算の議論にすらならないので、載せること自体に戦略的な意味がある。場合によっては、技術的成熟度の検討を並行しつつ、とりあえず掲載しておくということもありうるのではないか。
 - ・財源やリソースに制約がある状況下でどのように対応するのか？
→ 巨額のプロジェクトを始めるには、既存プロジェクトのいずれかを止めることをお願いすることになる。予算だけでなくヒューマンリソース、電気代なども制約条件であり、機構全体で最適な建設的方策を前提とした検討・調整を行いつつ進めていくことが不可欠である。
 - ・この大型研究計画の進め方が決定されたら、研究コミュニティに説明されるのか？
→ 決定された内容は、機構長が各コミュニティに直接説明に赴き、理解を得ることとする。
- (2) 国立大学法人横浜国立大学先端科学高等研究院と大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構との量子科学に関する連携協定書の締結について
花垣理事から、資料3に基づき説明があり、審議の結果、資料のとおり了承された。
- (3) 2025 年度第3回・短期海外招聘研究員受入計画について
花垣理事から、資料4に基づき説明があり、審議の結果、資料のとおり了承された。

【3】報告

- (1) LiteBIRD 計画への KEK 参画・推進経緯等に関する検証結果について
長野理事から、別途配信資料に基づき報告があった。

以上